「押さば押せ、前へ」

丸山相撲クラブ

第30回全日本小学生相撲優勝大会出場（佐々木開地）
平成29年度全国高校総合体育大会出場（下山謙信・大立目直希）

前列左が下山謙信、同右が大立目直希
後列左から５番目が佐々木開地

丸山相撲クラブは、冬の間、月２回ほど小牛田農林へ出稽古。伊藤監督は「部員が子どもたちの指導を担当。子どもたちへの指導は、部員が相撲や礼儀を学び直す良い機会」と語る。

丸山相撲クラブ

米山相撲協会として、長年地域の子どもたちに相撲の楽しさを伝え、心と体の健全育成に努めてきた。2016年に米山町出身の第3代横綱、丸山権太左衛門にちなみ、「丸山相撲クラブ」と名称を変更。同クラブでは、男女を問わずクラブ員を募集中。詳しくは、担当熊谷まで（電話番号：090（1934）2298）

近年、丸山相撲クラブの活躍が目覚ましい―。

昨年度は、下山謙信＝米山町城内＝（同クラブOB、現小牛田農林高1年）が全国都道府県中学生相撲選手権大会に出場し、個人戦でベスト32に、本年度は佐々木開地＝南方町砥落（南方小4年）＝が、わんぱく相撲全国大会と、全日本小学生相撲優勝大会に出場するなど、県内屈指の強豪クラブとして名をはせている。

全日本小学生相撲優勝大会は2017年12月3日、東京都の両国国技館で開かれ、小学4年生以下の部に佐々木開地が出場した。佐々木の目標は、わんぱく相撲全国大会で果たせなかった「8強入り」だ。

1回戦、関東ブロック代表の中澤睦士と対戦。佐々木は145センチ、55キロと小4では決して小さくはない。しかし、中澤はそれを上回る150センチ、65キロ。相撲の勝負は、立ち合いで8割が決まるといわれる。対格差がある場合は、立ち合いでの負けは敗北に直結する。

仕切りからの立ち合い。佐々木は反応が遅れ、中澤に胸から当たられ、左四つの体勢を取られる。寄り切られそうになりながらも体を入れ替え、首投げを打とうとする。中澤は、背後から押し出しを狙うが、佐々木は器用に体を入れ替えしのぐ。しかし、腰が高くなったところをもろ差しにされ、押し倒しで万事休す。目標の8強入りは消えた。

佐々木は「立ち合いで頭からぶつかれなかった。負けてすごく悔しい。全国8強を目指し、稽古を頑張る」とリベンジを誓った。熊谷聖昭コーチは「自分の相撲を取れなかったのは残念だが、よく頑張った。全国の土俵に2回も上がったのは、普段からの努力の成果」と、佐々木の活躍を褒めた。

県高校相撲の名門、小牛田農林相撲部。昨年4月、丸山相撲クラブから下山謙信と大立目直希＝米山町追土地＝が入部した。

二人は、小3から同クラブで相撲を学んだ。熊谷コーチなどの指導の下、めきめきと頭角を現す。小6時には、互いに県大会で優勝する活躍を見せた。二人とも中学進学時には「絶対に小牛田農林に進学する」と決意していた。中学で、下山は柔道部、大立目は陸上部で、パワーアップのために砲丸投げを選ぶ。それぞれ相撲との二足のわらじを履いた。

憧れの「農林相撲部」は二人の予想を超えていた。「ぶつかり稽古一つとっても、中学とは比べ物にならない。3分も続けると息が上がった」と下山。「自分は体の線も食も細い。稽古もだが、多くの量を食べることがきつい。しかし食べることも大切な稽古」と大立目。

それぞれが厳しい稽古を乗り越え、昨年8月に開かれた南東北インターハイには、下山が個人と団体に出場、大立目が団体補欠メンバーに選ばれた。下山は、個人予選を2勝1敗で突破する。決勝トーナメントは、南宇和（愛媛県）の佐々木と対戦。立ち合いで先手を取られ、押し出しで敗れる。

団体予選は2勝1敗で突破し、迎えた決勝トーナメント初戦。岩手の強豪平舘との隣県対決。小牛田農林は、あと一歩まで押し込むも、勝利に届かず0―5で涙を飲んだ。

下山は「この結果に満足していない。立ち合いを磨き、得意の四つ相撲に持ち込めるよう稽古を積む。次のインターハイで個人、団体どちらも上位を目指す」、大立目は「補欠はあくまで補欠。来年度は必ずメンバー入りする」と闘志を燃やす。

伊藤裕之監督は「下山は、上背と柔道で身に付けた投げの技術が武器。そこに相撲の「押し」が加われば、全国での活躍が期待できる。大立目は、入部後10キロ以上体重を増やしてきた。強い気持ちを持っているので、これに技と体が付いてくればすぐにメンバー入りできる」と目を細める。

相撲の極意は「押さば押せ、引かば押せ」―。どんな場合でも引いてはならない。全身全霊を込めて、ひたむきに押していく。大横綱、丸山権太左衛門が見守る地で、クラブ員たちはひたむきに前進し続ける。

丸山相撲クラブメンバー

阿部	凌成
遠藤	太貴
佐々木	琉七
遠藤	尚樹
佐々木	開地
武山	吏琥
千葉	優弥
永谷	海翔
石川	凛大
永谷	南月希
丸山	敦生